

会員各位

「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的な考え方」について

昨年 11 月、厚生労働省の高難度新規医療技術の導入プロセスにかかる診療ガイドライン等の評価・向上に関する研究班より「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的な考え方」が提示されました。

その中で高難度新規医療技術に該当するものは、外保連試案の技術難易度 E(原則すべて該当)・D(原則として相当しないが、特に難度が高いと判断される技術)とされます。

それを受け、アンケート調査を行い日本耳鼻咽喉科学会では以下の 6 項目を挙げることとなりましたのでお知らせします。

平成 29 年 4 月 28 日

日本耳鼻咽喉科学会
理事長 森山 寛
保険医療委員会

技術難易度 E

1. 鼻咽腔悪性腫瘍手術（広汎切除）
2. 副咽頭間隙悪性腫瘍摘出術（経側頭下窩）
3. 上顎骨悪性腫瘍手術（広汎全摘・頭蓋底郭清）
4. 口腔・顎・顔面悪性腫瘍手術（広汎切除）
5. 拡大副鼻腔手術（内視鏡手術 V 型）

技術難易度 D

6. 中耳悪性腫瘍手術（側頭骨広汎全摘術）

「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的な考え方」の詳細につきましては、日本医学会のホームページを参照してください。

<http://jams.med.or.jp/news/043.html>